

心も体も伸び伸びと！



まぶしい太陽と蒸し暑さの中、運動場では子どもたちの元気な声が響いています。泥んこになった子どもたちは土の感触や匂いを体いっぱい感じたり、石けんクリーム作りに挑戦したりしながら、新しい発見に心躍らせ「次はこうしてみよう」と目を輝かせています。



新しい生活様式を取り入れながら、心も体も伸び伸びと遊ぶことを大切に、遊びから広がる『学びの芽』を大切に育てていきたいと思えます。

ドルカスこども園



「子どもに寄り添って」

春、さわやかな風に暖かい日差し、新入児12名を迎え13名でスタートした、はなぐみ0歳児も、お天気の良い日にはお散歩に行くことを楽しんでいきます。
4〜6人乗りの避難車（ベビーカー）に乗せるとにっこり笑い、指さしをしたり、足を屈伸させて「行こう」と意思表示をしながら、身体全身で喜びを表現しています。

緑の葉っぱやタンポポに触れたり、跳んでいる虫を見つけると「ったあ」「あったあ」と指差し、嬉しそうに私たちに語りかけてくれます。また、0〜2歳児クラスで取り組んでいる担当制保育では、一人ひとりの子どもの発達に合わせて食事と排泄、睡眠を見ています。

いつもお世話をしてくれる大人が決まっているので、子どもの情緒の安定にもつながります。子どもはいつも大人の優しい眼差しに見守られているので、困ったときに大人を見ればすぐにどうしてほしいか分かってもらえるし、助けてもらえる。そのような関係性の中で、目に見える体の発達だけでなく、子どもの内面の発達も支えていくことができます。

日々成長する子どもたち一人ひとりの思いに寄り添い、愛着関係を築きながら、元氣いっぱい楽しく過ごしていきたいと思えます。



飯山中学校

「コロナ禍で考えたこと」

三年五組 坂井結梨

学校が再開し、約2ヶ月が経ちました。私が一番不安だったことは、学力の低下です。三年生は数ヶ月後には受験をひかえているのにも関わらず、このような状況になり、自粛期間中の勉強の遅れを取り戻すことはできず、疑問に思っていました。

部活動の範囲も限られたり、学校行事もなくなったりと、悲しいことばかりではあるけれど、今自分ができることは何かを見つけていく判断力が必要だと改めて思いました。

周りの協力や支援があつてこそ、私達は前に向かって進むことが出来ていることを忘れず、感謝の気持ちで毎日を過ごしたいと思えます。

「コロナウイルスに関しては「感染してからでは遅いこと」「周りの人にも迷惑をかけること」「気を抜かないこと」を大切に、学校生活や外出時には意識して行動しようと思えます。皆さんも普段の生活を工夫して、ストレスをためず、楽しく過ごしていきたいです。距離は離れていても、心はつながっています。マスクをしても笑顔は伝わります。今自分ができること、みんなのために出来ることを考えて行動し、これからも前進していきます。合い言葉は、「強力な協力」。